

教科・領域	作品名	学校名	応募者名	作品の説明	写真	講評
1	図工 版画の資料	多治見市立市之倉小学校	土屋 孝政	版画の学習を児童が自ら進めていくためのデジタル資料を制作した。ロクロ上でアイデアを何度も試す方法を提示している。版の実物も提示することで、彫るところと残すところを児童が実際に試しながら確認できるようにした。		タブレット上で版の向きや色の配置を繰り返し試すことができるようにしたことで、児童が自分のイメージに合う模様を主体的に追求できる教材となっている。試行錯誤を支え、納得して表現する過程を大切にしている。
2	特別支援(教科) 漢字パズル	土岐市立土岐津小学校	西村 泰宏	特別支援学級の児童が漢字を覚えることができるように、漢字を部首とつりに分けたカードを作った。それらを使って、大きな掲示物に書いてある漢字を作り、掲示物パズルを作成した。ペーパー漢字を作り、作った漢字の読みを声に出して言うというルールを作ることで、漢字の形も読みも覚えることができるような活動に使用している。		本教材は、漢字を部首とつりに分けてカード化し、漢字パズルを楽しむのが学習できるように工夫されている。新しい漢字を学ぶたびにパズルが解けるため、意欲的に学習に取り組むことができた。また、掲示教材として日常的に目にすることで、児童が進んで漢字を活用しようとする態度の育成も期待できる。
3	図工 ねんどさくひんづくりそのまゝに(児童用)	土岐市立養木小学校	岡 龍郎	粘土作品づくりは、土岐市が誇る、表現の魅力がいっぱいにつつまふさと題材のひびくところである。しかし、他教科・他教材との兼ね合いや働き方改革の推進等もあり、市販のかかる粘土教材の教材研究に多くの時間を充てることが難しくなっている。また、指導計画も形態化しがちで、本来のねいり技術的に抑えておきたいポイントの指導等が抜け落ちることも多く、指導者による温度差が広がってきていると感じることもある。そこで、図工の専門指導はなくとも、学級間格差なく平等に粘土指導ができること、単年度で終わらずに持続可能な教材になること＝いつまでも「だれでもつかえる」を願い、粘土作品づくり用の提示資料の作成に着手した。本作品は、1～6までの全児童と指導者の活用を想定している。題材導入時に活用することで、児童の表現意欲を刺激するとともに、指導者の不安感や負担感の軽減につながることを考える。		地域の実態や指導上の課題から、全学年で活用できるようなデジタル教材を作成した点が優れている。粘土の面白さや表現の工夫を分かりやすく示すことで、指導者による差を軽減し、児童の豊かな発想や表現を支える教材になっている。
4	社会 地図の読み方支援グッズ	瑞浪市立瑞浪小学校	山下 菜々	社会科の見方を働かせながら地図を読み取るために、視点を明確に記したマグネットと、既習事項を階層にまとめた掲示物を作成した。児童が学習しながら既習事項を振り返り、追記に活用することができた。また、社会科の考え方を働かせるために、地勢図と土地利用図、産業分布図を透明シートに印刷した。それらを重ねることで、比較、関連付けながら考えることができた。		透明シートや視点バネル、学習のまとめ資料を効果的に活用し、児童が社会的事象を関連付けて考えた。既習事項を基に思考を深めたりできる工夫がなされている。主体的な学びを支える有用な教材である。
5	理科 月(天体)の動き発見フレーム	瑞浪市立瑞浪小学校	長瀬 雄哉	理科「月や星の見え方」の単元で使用する教材を作成した。本教材は、透明な観察窓と位置を表すメモリを備えた観察フレームである。児童は観察時にフレーム越しに見ると、その位置をシールで記録する。複数回の観察結果を同紙のフレーム上に残すことで、月の移動の様子を視覚的に比較することができる。また、フレームの枠線を利用することで規則性に気づきやすくする効果を期待している。		児童の困った実態を把握し、月の動きの観察につきまらずに月に関する知識や技能を身につけるための教材が効果的である。複数回の観察結果をまとめるため、フレームに座標が表示され、月(天体)の移動を観測する上で使いやすい。フレームも再利用しやすく、何度も活用できる。
6	特別活動 みんなでえらぼうオルゴール曲	令和7年度瑞浪市立陶小学校	令和8年度・瑞浪市立日吉小学校教諭 羽柴 美和 ・中津川市立加子母小学校教諭 船戸 晴花 ・瑞浪市立瑞浪小学校事務職員 渡辺 智絵	事務職員の「学校予算に児童の声を取り入れたい」という思いから、児童会の「星の放送で流れるオルゴール曲を変えたい」という発案を生かし、「みんなでえらぼうオルゴール曲」キャンペーンを実施した。児童会、担当教員、事務職員が協働し、スクール・サポート・スタッフが候補曲を紹介した投票用紙を作成した。全校児童による投票を行い、その様子を学校ホームページで発信した。投票結果をもとに学校予算で購入する曲を決定し、児童が学校予算を身近に感じながら学校づくりに参画できる取組とした。		児童会の発案を生かしたことはもちろん、担当教員や事務職員、SSSなど、さまざまな立場の職員が関わっている。また、その様子をHPに掲載するなど、協働を大切にし、それを発信することで、周りもまきまきながら、その価値を広げていった点が素晴らしい。
7	健康教育(小) 日吉小歯科ニュース(掲示物)	瑞浪市立日吉小学校	佐々木 実里	日吉小は、う歯がある児童の割合が全国平均よりも高く、はみがき習慣が身につかない児童もおり、健康課題の1つに歯科保健がある。①歯科歯科健診の結果②歯の健康を守るための基本的な知識(クイズ形式)③健診結果があった児童が意識していることについて掲示した。健診結果を用いたり、仲間のことを紹介することで歯科保健を身近なものにできるようにした。		自校の実態を踏まえ、健康課題の一つとして歯科保健を取り上げて掲示した点が素晴らしい。歯の健康を身近な問題として考えられるようにこの作者の思いが伝わる作品がある。歯科健診の結果やクイズ、よい結果につながった児童の取組を紹介することで、興味や関心を高める効果が期待されている。自分の生活を見直し、望ましい歯みがき習慣の定着を促す教材として高く評価したい。
8	学校事務 初任者研修(教員)資料	瑞浪市共同学校事務室会総務担当者会	令和7年度メンバー 戸塚(チーフ) 高橋 美里 小暮 希里 渡辺 智絵 杉原 杉江 山内 淳平	新規採用教員の公務員としての自覚や学校事務の基礎知識を養うため、学校事務職員から学校事務に関する研修を実施する際に、市内統一の内容で研修ができるように資料を作成した。 学校事務に関する内容について発信することは、学校事務職員の力量によるところがあるが、誰もが使用できる市内統一の資料を作成することで、経験の浅い事務職員のOJTにも繋げることができる資料として有効なものとなった。		市内で誰でも使える統一資料を整え、研修の質を底上げした工夫のある作品である。勤務経験の差を埋めつつ事務の基礎を確実に学べる仕組みを築き、新任教員と事務職員双方の成長を支える実践である。
9	外国語 どこでも四線器	忠勝市立大井小学校	三宅 美慧	黒板に英文や英単語の板書用に、4線を描くために作成した。これさえあれば、いつでもどこでも4線が書ける。線の幅は4:5:4。これは、東京書籍の開発した、NHHandwritingフォントに対応している。4線の中央の幅を若干広くし、使用率の高い小文字に配慮している。		小学校の書くこと指導において、アルファベットの大きさや文字を4線上で視覚的に示しながら指導することが大切である。短い時間でずっと4線を引いて指導できる点や、教科書で使われている字体的な大きさに合わせている点は、児童にとって見やすくよい。
10	算数・数学 学習者用共有ノート	忠勝市立串原小学校	水室 和亮	複式学級で学習しづらい児童を行うにあたり、教師不在でも学習者が学習リーダーを中心に自分たちで学びを進められるよう、ロイロノートの共有ノートの機能を使いワークシートを開発した。既習事項との比較、課題設定、課題解決の見直し、各自の考え、気づきや要点、まとめまでの一連の学習を協働して加筆していく、学習を進めていくことができる。		複式学習における学習しづらいの指導では、教師が一方の学年から離れる場面が生じる。その際、児童が主体的に学びを進める方法や、学習状況を適切に見届ける工夫について参考になる実践である。
11	健康教育(小) 児童の自己管理能力を高める保健室掲示	忠勝市立上矢小学校	丸山 唯花	年間を通して、季節や学校行事に合わせた保健室の掲示物を作成・掲示している。児童が日常生活の中で健康について考え、正しい知識を身に付けるとともに、自分の生活を振り返りながら健康を守る行動につなげ、自分の健康を管理する自己管理能力を育むことを目指して取り組んでいる。		毎月の掲示を作成し、保健室の掲示がリニューアルされている点が素晴らしい。「児童の自己管理能力を高める」という目的のもと作成され、知識として理解したことを活用して生活できるよう工夫されている点が秀でている。活用した知識を活用しながら実生活にあずかることができる掲示となっている点を高く評価したい。
12	保健体育 視点くっきり走り幅跳びDXバックス(タブレットシミュレーター) (コマ送りフォームマップ)	中津川市立西小学校	村田 敦哉	走り幅跳びにおいて、準備の時短と児童の主体的な学びを両立する3点セット。秒に利し止まることで、安全確保と両側計測ができる「測レーン」を入れるだけで瞬時タイムと端画面をくっきり映す「タブレットシミュレーター」、手足の細かい動きに注目し児童の気づけで完成させる「コマ送りフォームマップ」からなる。運動量の確保、屋外ICTの利便性向上、仲間への的確なアドバイスを生む姿が見られた。		走り幅跳びの学習における準備の効率化と主体的な学びの充実を目指した作品の発想が光る教材である。「測レーン」「タブレットシミュレーター」「コマ送りフォームマップ」の工夫により、準備の時短による運動量の確保とICT活用を両立させ、児童同士の気づけや学び合いを促している点が、児童同士の気づけや児童の発見した技術ポイントが累積され、活用されている点も素晴らしい。